



Syllabus

授業詳細

開講年度	2017	開講学期	後学期
開講学部等	農学部生命機能学科	授業科目区分	専門教育科目 専門教育【専門科目】
科目ナンバリング	AgB2B-8INF-024	時間割番号	26409
対象学生		対象年次	2～
科目名[英文名]	コンピュータ演習 [Practical Training in Computer Programming]	単位数	1
担当教員[ローマ字表記]	菅原 卓也, 西 甲介 [SUGAHARA Takuya, NISHI Kosuke]		

授業題目

コンピュータ演習 (Practical Training in Computer Programming)

授業のキーワード

ワード (word)、エクセル (excel)、パワーポイント (powerpoint)、レポート作成 (report)、データ処理(data processing)

授業の目的

応用生命化学コースの学生が習得しておくべき、コンピュータソフトの利用法を習得する。特に、レポート作成、データ処理、プレゼンテーションといった、卒業論文作成や卒論発表を行うに当たって必要なソフトの取り扱いを習得する。

授業の到達目標

- (1) マイクロソフトワードを用いて、インデント等の設定がなされた、わかりやすい実験レポートが作成できる。
- (2) マイクロソフトエクセルを用いて検量線が作成でき、検量線を元にした検量値の算出ができる。
- (3) インターネットを用いた情報収集ができる。
- (4) マイクロソフトパワーポイントを用いて、わかりやすく、効果的なプレゼンテーションができる。

ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標) / 共通教育の理念・教育方針に関わる項目

(技能・表現) 自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

必要な情報を収集・整理できる
個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる

授業概要

1. 日本語処理とワープロソフトの操作 (Word2016)
2. 表ソフトの操作 (Excel2016)
3. グラフィックソフトの操作 (PowerPoint2016)
4. インターネットによる情報収集
5. プレゼンテーションファイルの作成と発表 (Power Point2016)

授業スケジュール

- 第1回：オリエンテーション
第2回：ワードによる読みやすい実験レポートの作成法（1）
第3回：ワードによる読みやすい実験レポートの作成法（2）
第4回：ワードによる読みやすい実験レポートの作成法（3）
第5回：エクセルによる表計算とグラフ描画法（表の作成）
第6回：エクセルによる表計算とグラフ描画法（検量線の作成と検量値の算出）
第7回：エクセルによる表計算とグラフ描画法（レポート作成）
第8回：エクセルによる表の作成技術の向上（作表の技術向上）
第9回：プレゼンテーション資料作成のためのインターネットを用いた情報収集（1）
第10回：プレゼンテーション資料作成のためのインターネットを用いた情報収集（2）
第11回：パワーポイントによる効果的なプレゼンテーション資料の作成法（1）
第12回：プレゼンテーション（1）
第13回：プレゼンテーション（2）
第14回：プレゼンテーション（3）
第15回：プレゼンテーション（4）

授業時間外学習にかかわる情報

ワード、エクセル、パワーポイント(プレゼンテーション)の演習それぞれに関してレポートを課します。レポートの提出期限に間に合わない人は、授業外時間を使ってレポートを作成してください。

成績評価方法

レポート（3課題）、およびプレゼンテーションで総合評価する。

受講条件

特になし

受講のルール

演習に集中すること。私語をしない。

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	-		ISBN	
	著者名		出版社	出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	-		ISBN	
	著者名		出版社	出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

教材としてプリントを配布する。

参考書に関する図書館への連絡事項（この欄は学生から参照することはできません）**オフィスアワー**

月曜日10時から11時

Eメールアドレス

sugahara.takuya.mz@ehime-u.ac.jp

連絡先

農学部3号館266号室

sugahara.takuya.mz@ehime-u.ac.jp

参照ホームページ

<http://web-amb.agr.ehime-u.ac.jp/>

その他

コンピュータの取り扱い技術、あるいは種々のソフトの取り扱い技術には大きな個人差があります。本演習の開講目的からすると、取り扱いに慣れていない人の技術向上を狙って演習を進めていくこととなりますので、十分な取り扱い技術を持っている人にはレベルの低い内容になってしまうかもしれません。しかし、取り扱いに慣れている人は慣れていない人を指導してあげることで、自分の取り扱い技術がさらに向上します。したがって、取り扱いに自信のある人は、どんどんみんなを指導してあげてください。

[↑ページの先](#)